# 11［評論］『学校って何だろう』

　これまで、いろいろな種類の隠れたカリキュラムについて説明をしてきました。学校では、数学のａホウテイシキや英語の関係ｂダイメイシなどのように、「この知識を教えよう」とはっきり示していないのに、ふだんのなにげない生活を通じて、生徒に伝えられることがたくさんある。さまざまなルールや、ものの見方・考え方、人とのつき合い方、日本という国のまとまりや、日本人であるといった意識など、いろいろなことがらが、学校では生徒たちに教えられています。

　［　　Ａ　　］ 、どうしてこのような①隠れたカリキュラムが、学校生活の中に入り込むのでしょうか。最後に、この問題を考えていくことにしましょう。

　この問題を考えるために、隠れたカリキュラムを大きく二つに分けてみましょう。一つのタイプは、学校生活をスムーズに行うために入り込んでくる隠れたカリキュラムです。これは、すでに述べたように、授業などをきちんと行うために必要とされるいろいろなルールのことです。時間を守ることも、コミュニケーションのルールも、一人で勉強するのではなく、集団で勉強するときに必要となる約束事です。

　もうひとつのタイプは、もっと自然に、知らず知らずのうちに学校生活に入り込んでいる隠れたカリキュラムです。男女の区別や、年齢による区別といったことは、それが特別に問題とされないかぎり、「あたりまえ」のこととして学校の中でも使われる区別であり、約束事です。学校以外のところでも、なにげなく使われる区別が、そのまま学校でも使われるのです。

　 ②日本人や日本という国についての意識も同じです。日本という国がすでにまとまりをもっていることや、私たちが日本人であるという意識があたりまえになっている現在では、日本という国のまとまりをｃゼンテイに教育が行われるのも不思議ではありません。あたりまえと思われているからこそ、自然と学校の中にも入ってくる考え方なのです。

　ここで重要なのは、第二のタイプ、つまり、知らず知らずのうちに学校に入り込んでくる隠れたカリキュラムです。［　　Ｂ　　］ 、この第二のタイプの隠れたカリキュラムによって、あたりまえだと思っていることが、あたりまえのまま疑われなくなることがあるからです。

　男女の区別にしても、年齢による区別にしても、慣れてしまえばあたりまえに思える区別です。では、男子と女子の区別にしても、③ほかのやり方はないのでしょうか。年齢ごとの集団づくりにしても、違う学年をごちゃまぜにするやり方はできないのでしょうか。そう疑ってみると、どうしてもそうしなければならないほどのｄヒツゼンセイがあるとは限りません。出欠をとるときに男女まぜこぜで名前を呼んでも困らないはず。授業だって、塾や大学などでは、年齢にこだわらずにいっしょに勉強する集団がつくられることがあります。年齢よりどれだけの学力があるかをｅキジュンにクラスをつくってもよいのです。

●語注

カリキュラム＝ここでは教育課程のこと。学校では、発達段階に応じて、教育内容を計画的に配列している。その計画のこと。

問１　二重傍線部ａ～ｅのカタカナを漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　空欄Ａ・Ｂに入る適当な語句を次から選べ。3点×2

ア　さらに　　イ　というのも　　　ウ　もし

オ　でも　　　エ　言いかえれば

Ａ〔　　　〕　Ｂ〔　　　〕

問３　傍線部①について、簡潔に説明した箇所を本文中から三〇字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えよ。6点

〔　　　　　　　　〕〜〔　　　　　　　　〕

問４　傍線部②について、何と同じというのか。本文中から適切な部分を抜き出して答えよ。 6点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　傍線部③について、ここではどういうやり方があげられているか。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問６　隠れたカリキュラムについての説明として最も適当なものを次から選べ。7点

ア　学校生活の中心である授業と、授業を効果的に進めるためのルール。

イ　正規の授業時間以外の補習や自主学習と、人格形成のための生活目標。

ウ　主に親や社会の責任で身につけさせる常識や、日本人としての誇り。

エ　学校生活のためのルールと、学校以外でも使われている区別や約束事。

オ　宿題の提出期限厳守などのマナーと、学校外で教えられてきたしつけ。

〔　　　〕

問７　筆者の言う「隠れたカリキュラム」にあてはまらないものを次から一つ選べ。8点

ア　食事のマナー

イ　男女別の出席簿

ウ　掃除当番

エ　「起立・礼・着席」の号令

オ　漢字テスト

〔　　　〕

【解答】

問１　ａ方程式　ｂ代名詞　ｃ前提

　　　ｄ必然性　ｅ基準（比較する場合はこちら。「規準」は×）

問２　Ａ＝オ　Ｂ＝イ

問３　ふだんのな～られること（25字）

問４　男女の区別や、年齢による区別

問５　男女まぜこぜで名前を呼ぶこと

問６　エ

問７　オ

■覚えておきたい語句

□10　コミュニケーション…言葉や文字などで意思の伝達を行うこと。

□17　前提……………………ある物事の成り立つもととなるもの。

□26　必然……………………必ずそうなること。〔反〕偶然

〔要　約〕

［1］・［2］段落と［7］段落を中心に、隠れたカリキュラムの第二のタイプに触れつつまとめる。

　　　　↓

学校には、普段の生活を通じて教えられる隠れたカリキュラムがある。その中には、男女の区別など学校以外でもあたりまえとされているために学校に入り込んでいるものがあるが、そのことに必然性があるとは限らない。（100字）

〈筆者＆出典〉苅谷剛彦（かりや・たけひこ）一九五五年（昭和30）東京都生まれ。教育社会学者。東京大学大学院教育研究科修士課程修了。ノースウエスタン大学大学院博士課程修了。東京大学教育学研究科教授などを経て、二〇〇八年よりオックスフォード大学教授。日本の戦後社会には、教育における隠れた社会階層が一貫して存在してきたことを指摘。著書に、『階層化日本と教育危機』『教育の世紀』など。本文は、『学校って何だろう』（ちくま文庫、二〇〇五年）より。

【読みのセオリー】

★具体例を整理する視点

　筆者は、あることを説明しようとして具体例を挙げる。だから、何を説明しようとして、その例が挙げられているかをきちんと把握しておくことが大事になる。「同じ」ものが、何と何かがわかるためには、それが「どういう点」で同じなのか（何を説明する例であるか）が理解できていなければならない。

■読みのセオリー［実践］具体例を整理する視点

問４　日本人や日本という国についての意識が、何と同じというのか。

話題は、学校での生徒の意識についてで、日本人であるという意識が「あたりまえになっている」（17行目）ということ。

　　↓

4段落で、「あたりまえ」のこととされているのは、

　　↓

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

〔解答〕　男女の区別や年齢による区別

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊差し替え

問６　「隠れたカリキュラム」の二つのタイプについて簡潔に説明せよ。

［答］　学校生活をスムーズに行うための約束事と学校以外のところでも、なにげなく使われる区別または約束事。

＊新問

問　第二のタイプの「隠れたカリキュラム」が重要だと筆者が言う理由を説明せよ。

［答］　あたりまえと思われているだけに、どうして必要なのか検討されなくなるおそれがあるから。

＊新問

問　24行目「違う学年をごちゃまぜにするやり方」とは、たとえばどういうやり方か。

［答］　学力を規準にした学習集団をつくるやり方